

The international forum on worldwide famous gardens and
Creation of beautiful landscape

淡路花博2015花みどりフェア

世界の庭園と景観園芸に関する 国際フォーラム 報告書

テーマ：花みどり環境の創造と担い手

- ◆ 開催日：2015年4月25日（土）
- ◆ 場 所：淡路夢舞台国際会議場メインホール
- ◆ 主 催：淡路景観園芸学校 2015 花みどりフェア実行委員会、（一財）自治総合センター
- ◆ 協 賛：淡路花博 15 周年記念事業実行委員会
- ◆ 後 援：総務省 神戸新聞社

The report of “The international forum on worldwide famous gardens
and creation of beautiful landscape”

世界の庭園と景観園芸に関する国際フォーラム
報告書

目 次

はじめに	・ ・ ・ ・ ・ 1
1. 国際フォーラム	・ ・ ・ ・ ・ 3
◇オープニング	・ ・ ・ ・ ・ 5
◇開会挨拶・来賓紹介	・ ・ ・ ・ ・ 7
◇基調講演 ロングウッドガーデン教育部長 ダグラス ニーダム	・ ・ ・ ・ ・ 15
◇パネルディスカッション 報告1 ナイアガラ園芸学校 チャールズ ハンター 報告2 ヒドコートマナーガーデン クリス チャーマン 報告3 日本庭園管理 加藤 友規 報告4 奇跡の星の植物館プロデューサー 辻本 智子 ディスカッション	・ ・ ・ ・ ・ 33
2. 情報発信	・ ・ ・ ・ ・ 61
◇世界の庭園に関する写真展示および各種配布物	・ ・ ・ ・ ・ 63
おわりに	・ ・ ・ ・ ・ 76

はじめに

淡路島で 20 年前に開催された「ジャパンフローラ 2000」では、“人と自然のコミュニケーション”をテーマに多くの展示・活動が催され、まさに人と自然のコミュニケーションのあり方が示されました。その後、2010 年には「淡路花博 2010 花みどりフェア」が開催され、“人と自然の新たなコラボレーション”がテーマとなりました。

それらのフェアを通じて、自然と人との関係は“共生”という言葉で結ばれ、当地（淡路夢舞台周辺エリア）は国際園芸博覧会開催の場として、グローバル社会への情報発信も担ってきたと言えます。

今回開催された「淡路花みどりフェア 2015」では、「淡路島を舞台に全島民あげて開催することを通じ、国生み神話に彩られた淡路島を未来の一つの地域社会のモデルとして、人と自然が共生した持続可能な社会の実現をめざす姿を、淡路から広く国内外に向けて発信する」ことを目的にしていました。

そのような中、本フォーラムは、「人と自然の共生を感じられる場所」として庭園を題材とし、国内外の庭園等における花と緑で環境を形成する活動について事例を紹介し、それらを実現するために必要な人材、資源などについて明らかにすることを目的として開催されました。

基調講演では、海外での庭園管理に関わる人材育成について米国ロングウッドガーデンの取り組み例を、パネルディスカッションでは国内外の名園から演者にお越し頂き、各庭園等の事例を報告頂くとともに、景観園芸分野における人材育成についての共通点・相違点を踏まえ、育成手法について今後の方向を議論することを目的としていました。

ここに、その記録を示すことにより、今後の「人と自然の共生」についての重要な視点の提示になることを願います。

淡路景観園芸学校 2015 花みどりフェア実行委員会



それでは、よろしくお願いいたします。

本日は、①自己紹介のあと、②御用達庭師としての私の哲学を紹介し、また具体的な手入れについては、③名勝無鄰菴庭園を事例に説明し、最後に④人材育成においての心得を述べさせていただきます。

① 自己紹介

私の職場、植彌加藤造園は1848年に創業し、先祖代々続く京都の造園会社です。現在は80人ほどのスタッフとともに毎日楽しく仕事をしております。

毎朝、朝礼で唱和している私の理念は「お客様を大切に真心の奉仕をしよう」、そして「さわやかな笑顔、確かな技術」です。人材育成の面では「伝統から学ぶ、仲間から学ぶ」をモットーにしております。

また、「不易流行」という言葉も大切にしております。「不易」というのは、伝統的なもの、変えてはならないものです。その変えてはならない「不易」に対して、「流行」というものは、逆に時代とともに変えなければならないものになります。そういった変えてはならない「不易」と変えなければならない「流行」の両方を大切にしております。

こちらの写真は、けいはんな記念公園でのお茶会開催時の様子です。本日の配布資料にもあ

りますが、京都府精華町のけいはんな記念公園は、今年2015年4月29日で開園20周年、二十歳のお誕生日を迎えます。そのお祝いの式典もございまして、機会があったらぜひお越しくださいませ。こうした取り組みやコンサート企画などは、庭師の職人集団としての不易流行であろうと思っております。

こちらの写真は南禅寺界限別荘庭園の無鄰菴と對龍山荘（たいりゅうさんそう）です。パネルの展示も行っていますので、後でまたぜひご覧ください。これらの庭園は作庭から100年が経過していますが、紅葉も大変きれいです。この對龍台（たいりゅうだい）からは東山の借景を拝むことができ、春夏秋冬の景色を味わえます。また、南禅寺の方丈庭園や、くろ谷金戒光明寺、京都嵐山の「星のや京都」などの景色を我々は手がけております。

② 私の哲学 -御用達庭師として-

それでは、私の庭師としての哲学をお話ししましょう。

まず、お庭が竣工した時は「完成ではなく、誕生」ということです。そして次に、「作庭4分、維持管理6分」という言葉が京都には昔から伝わっていますが、この維持管理について庭師の目線で掘り下げたいと思います。

さて、お庭の作庭時を思い浮かべてください。ヒト、モノ、カネ、そして、愛情や情熱など、ものすごいエネルギーを注ぎますから、その分、竣工時にはお庭からたくさんの感動をもらいます。でもこれは一瞬の喜びに過ぎず、お庭というのはその後、10年、20年、30年と維持管理がつづきます。我々がお手入れするお庭には、100年、200年というような歳月が流れているところもあります。そう考えるとお庭には完成はなく、お庭の竣工＝誕生なのです。そして、作庭時にどれほど情熱を注いだとしても、それは一瞬に過ぎず、維持管理は何十年、

何百年とずっと続きます。「作庭4分、維持管理6分」は、維持管理のウェイトのほうが重いことを教えてくれます。

この「作庭4分、維持管理6分」ですが、「維持管理」を英語に訳して「メンテナンス」と言いますと、ちょっと庭師の取り組みとは意味合いが違ってきます。ですから、私はこの「維持管理」を「育成管理（フォスタリング fostering）」という言葉に置き換えています。実に、庭師らしい言葉だと思います。

もう少し詳しく説明しますと、お庭が誕生したとき、感動をもらいます。でも、その感動はあくまで一瞬の感動です。そして、メンテナンスをしながら、歳月が流れていきます。このメンテナンスのプロセスの中で、実は私たち庭師はついつい過ちを犯してしまうことがあります。どんな過ちかと言いますと、維持管理の中身がマンネリ化してしまうことです。お庭づくりではあれほどまで愛情を注いだのに、維持管理となると、ただ単に伸びた枝をチョンチョンと切るだけで、マンネリ化してしまう。それではいけませんね。この維持管理プロセスの中でも、作庭のときと同じように愛情を注ぐことによって、この維持管理（メンテナンス）は、庭を育む（フォスタリング）という意味合いになるかと思っています。そうすることによって、このプロセスの中で引続きお庭から感動をもらい、お庭が成長していく喜びが感じられるわけです。

2つの違いをもう一度整理しましょう。維持管理（メンテナンス）と言ったときは、何か伸びた枝を切るだけの単純作業のイメージに誤解されがちです。でも、育成（フォスタリング）と言いますと、子供を育てていくように庭の景色を育み、その景色に価値を与えていく仕事です。庭師の仕事の真髄というのが、育成管理、フォスタリングであると考えております。

お庭を育む際の考え方ですが、はじめに、そ

のお庭の本質的価値の分析を行います。難しい言い方をしていますが、そのお庭がどんな人生を歩んできたかということです。お庭の歴史や利用形態、過去から今までどんな歩みをしてきたのかを理解したうえで、現在の状態と比較し現状分析をします。本質的価値の分析と、現状分析。この2つのプロセスをしっかりとやっただけで、さあ、どんな育成計画を立てようかというのが、お庭の手入れの考え方です。

③ 庭園の事例 -名勝無鄰菴庭園-

では、具体的に庭のお手入れの事例を紹介しましょう。京都の無鄰菴庭園は、明治23年（1890）に竣工した琵琶湖疎水の水を引き込んだお庭です。現在、京都市が所有しております。

この無鄰菴は、作庭当時のお施主である山縣有朋さんが思いを巡らせ造られたお庭です。ですので、この方のビジョンをしっかりと読み取り、本質的価値を分析する必要があります。山縣さんはどんな思いでこの庭を造ったのかというと、様々な思いが記録されていますが、一番思い入れが深くて大切なのは「東山からの借景の連続的な景色」です。この写真は、山縣さんの思いが実現していた頃のもので、東山からずっと連続的な景色が続いております。これが山縣さんが愛でていた当時の無鄰菴の姿なのです。

それでは、今どうなっているのか現状分析をしますと、今は無鄰菴の東側に建物が立ち並んでいます。この建物群は山縣さんが愛でていた100年前はありませんでしたので、近年はこの建物群を隠すために木の高さを伸ばしておかなければならない事情がありました。しかし、いくら目隠しのために木の高さを伸ばしておく必要があっても、肝心の東山の借景が見えなくなるくらい樹木が伸びきってしまったはいけませんね。これは大問題です。そこで、私の職場では、現状分析として、周辺環境の分析をすることにしました。



周辺環境の分析 名勝無鄰菴庭園 (2007年3月)

まず、無鄰菴の母屋から見た景色を参照しながら周辺環境を分析してみます。大きくなった樹木と背後の建物との関係、また、実際の東山のスカイラインをよく見ていきますと、どれぐらいまで樹木を切下げるべきかというのわかります。このような形で現状分析をし、2つのプロセスを踏まえたうえで、無鄰菴をよくするための具体的な処置を考えると、山縣さんの思いである東山の借景を修復剪定で実現していくことが一番大切なことだということがわかりました。そこで、私の職場では、2007年4月から、無鄰菴の修復に取り組んでまいりました。

実際、写真のようにものすごく茂っておいりましたので、上部の高さを下げて枝抜きをして、光が入るようにし、若い枝の生育を促進していきます。写真にあるように、山縣さんが愛していた無鄰菴が2007年のときは残念ながら姿がずいぶん変わってしまっていたのですが、今回の修復剪定で、2015年現在はこのように東山からモコモコモと連続した景色が蘇りました。

今回、100年前の山縣さんの思いをしっかりと読み取り、現代にその景色を蘇らせ育ていくことを目指して修復剪定を行ったわけですが、まさに私たち庭師は、このように時空をつなぐ仕事をしているものと考えております。

④ 人材育成についての心得

次に人材育成について、お話しさせていただきます。

「加藤さん、本物の庭師になるのには大体何年ぐらい修行したらよろしいでしょうかね」とよく聞かれます。「そりゃ、やっぱり200年ぐらいかかりませ」といつも答えています。『庭師200年論』が私の正直な思いであり私の持論です。日本庭園は生きた総合芸術と言えます。その日本庭園を極めようと思ったら、植物のことはもちろん、土木や建築や、設備の中の電気や水道など、あらゆるものに精通していないといけません。そうでないと日本庭園というものはデザインしていけないでしょう。それぐらい奥が深いということを思いますと、やっぱり極めるには、200年ぐらいかかるなと思うのです。でも、200年、残念ながら今私たちはそんなに生きられないですね。だから、200年に相当する修行の人生を歩めたらいいなということをいつも職場でも言っております。「伝統から学ぶ、仲間から学ぶ」をモットーに、職場の人材育成を考えております。

まず、「伝統から学ぶ」ですが、京都では1200年間ずっと、先達たちが庭を造り、育んできたのですから、そういう偉大な先達たちの業績から学ぶことができます。例えば、14世紀には夢窓疎石さんがいて、17世紀には小堀遠州さん、20世紀は七代目小川治兵衛さんとか、もっともっといろんな方がいらっしゃいますが、こういった方の残された庭や記録から一生懸命学んでいくということ。この方々も同じ悩みを持っていたわけですからね。残念ながら、この方々はこの世にはいらっしゃいませんので、話にはできません。叶うものならば私も遠州さんにいろいろ聞きたいです。今、南禅寺方丈庭園をお手入れさせてもらっていて、遠州さんが造ったとされる頃はどんな思いだったのかというの

を本当は語り合いたいです。でも、残念ながらそれは叶いません。

昔の先達たちとは会話できませんが、今この同じ時代、現世をともにしている仲間からとは大いに学び合えます。私にとっての仲間というのはどういう方々かを考えると、まずは私の周りの一番身近な存在に職場の仲間がいます。私の職場では、毎日15~20件ぐらいの現場が同時進行しています。自分が携わる現場以外の、仲間が携わっている現場からも実体験に近い学びができるように、チームワークをしっかりと学び合う姿勢でいます。

そして、今日もそうですが、こうして、職場の仲間の周りには官・学・産、多くの専門家の方々が国内外問わずたくさんいらっしゃいます。そういう方々からもたくさん学んで、200年に相当する経験値を積んでいきたいと思ひます。

特に庭師に限って言いますと「口伝」がキーワードになります。言葉では伝えられない感性、美意識を伴った技能などを、庭師はこの「口伝」で伝えてきました。マニュアルに書くことができないものを感覚で覚えていかなければなりません。ちなみに「口伝」は「口で伝える」と書きますが、口で、要は言葉には表すことができないことも伝えていくのです。そういったことを、別の言葉では「暗黙知」と言います。マニュアルで説明できませんが、「あんじょうやっつけよ」、「はい。わかりました」というセンスの世界です。逆に言葉にしようとする、何のことかわからないのです。

実例をあげますと、例えば現場で滝石組を据える場合、ベテラン庭師と中堅や若手たちが一緒に、どういう思いでこの石を据えているのかを共有します。センスの世界ですから、答えはひとつとは限らないですね。でも、センスを磨き、その中で職場としてひとつの答えを共有していくのです。現場で暗黙知を共有し、そして



滝石組み作業風景 ベテランと若手がセンスを共有

また、座学でも知識を共有しています。私の職場、植簾加藤造園では、老若男女問わず、みんなが先生であり、生徒であります。まさに誰が生徒か先生かという、メダカの学校の世界です。たくさん専門領域がありますから、皆が先生であり生徒である、そんなフィールドです。

今は日本の庭園文化、技と心を学びたいと海外から来日される方もいます。私は日本庭園学会の理事を拝命しており、北米日本庭園協会さんとパートナーシップを提携している関係で、昨年2014年秋にシカゴを訪れ、北米日本庭園協会さんのカンファレンスで基調講演を務め、その場でもこの「口伝」の話をさせていただきました。

また、この写真のように、現地の人たちと一緒にワークショップもしました。三股（さんまた）を使って石を持ち上げるといった昔ながらの庭師の技法で作業の実演をしました。

ポートランド日本庭園のCEOスティーブさんの来日時も一緒に勉強会を開催したり、庭職人のアダムさんは昨年秋にインターン生として私の職場に2週間ほど来られ、実際にコケを張ったり、石を据えたり日本庭園の手入れの実習をされました。

このように、私の職場では、けいはんな記念公園も含めて、ポートランド日本庭園とパート

ナーシップを結び、お互いの得意分野を学び合
って人材育成に努めています。

私たちは京都の庭師の技と心をお伝えし、一
方、ポートランド日本庭園をはじめ海外の日本
庭園は運営マネジメントが大変上手で、ボラン
ティア制度など学ぶことが多くあります。そう
いったお互いの得意分野を学び合うことが、人
材育成の上では大切だと思っております。

時間のないところ恐れ入ります。以上でござ
います。

○平田 ありがとうございました。

京都の庭の奥深さ。その奥深さのポイントが
どこにあるのかということを丁寧に説明してい
ただきました。庭を単に見ているだけではわか
らないことも、こうやって説明を受けると、あ
あ、そうだったのかということがよくわかるか
と思います。

それでは、最後に、地元の淡路、この夢舞台
にある奇跡の星の植物館から、辻本プロデュー
サーから説明をしていただこうと思います。

それでは、よろしくお願いいたします。

ディスカッション

○平田

やはり最初から少し予想していたとおり、一人当たり10分という時間では無理でした。

でも、一人一人の御紹介は基調講演の内容を含んでいたものだと思います。そういう意味では、今日、皆さんはすごく贅沢なパネルディスカッションをお聞きいただいたことになるのではないかなと思います。

もう残りが15分ほどになってしまいました。

幾つか議論をしようと思っていた項目はあったのですが、もうこの時間となってはさすがにそれもできません。最後に、各パネラーの方から、今、自分が各公園を管理していて、あるいは各公園をマネジメントしていて、一番大切に思っていること、一番重要視していること、ミッションとして一番大事だなと思っていることは何なのか、だからこそ、もしこの各公園に来たならば、ナイアガラパークにしる、ロングウッドガーデンにしる、ヒドコートガーデンにしる、あるいは京都のさつき御紹介いただいた無鄰菴だとかにしる、奇跡の星の植物館にしる、この公園、この庭園に来ていただいたならば、ぜひここをこういう目で見てほしいというところを最後に御紹介していただいて、それをこの会場に来ていただいた皆さんへのメッセージということにさせていただきたいと思います。

残り時間が15分しかありませんので、各パネラーからは3分ずつということになってしまいます。ロングウッドのダグさんから順番に、御紹介させていただきたいと思います。

○ダグラス ニーダム ありがとうございます。いい御質問だと思います。

私は既にキーノートでも、基調講演でも申し上げましたが、教育、アート、園芸のすべては、

同様に重要であると思っています。

特に何が重要なのかというのは、人材教育、スタッフ教育だと思っています。彼らをエンパワメントしていく、本当にリーダーになるための教育をしていくということだと思います。

ロングウッドでは、その面で変わってきていると思います。各個人がリーダーシップのスキルをつけられるようにという考え方に変わってきております。

私たちの哲学の中でも、戦略計画の中でも、少し先ほどの基調講演でもお話ししましたが、シニアのメンバーだけではなくて、すべてのジュニアのメンバーも含めて、そういったリーダーシップの観点を持つということを重要に考えております。

○平田 ありがとうございます。見て欲しいと思っているのは人材育成であったということでありました。

もう一つ質問です。ロングウッドで、ぜひ見てほしいところ、こういう視点で見てほしいところ、お薦めポイントがあったら教えてください。

○ニーダム ああ、そうでしたね。

ゲストの方は、本当に美を楽しみにしてくださっています。私たちが期待するのは、いろいろなスタッフにも、その経験をつくっているス



タッフがいるということにも気づいていただきたいんです。園芸家として、本当にそういった努力をしています。庭園のデザインだけではなく、それをつくって維持している、美しい植物を手入れしているスタッフがいるということを理解いただきたいと思います。

ですから、その背後にはストーリーがあるということなんです。目に見えないところでも多くのストーリーがあるということ。園芸家の努力、そして、園芸という面にはいろいろある。デザインもありますし、それから、フルーツ、植物、いろいろな側面がある。特に新しいメドガーデンがオープンしましたので、テーマとしましては、持続可能性ですとか、それから、自生植物ということにも重視しておりますので、そういったところにも目を配って見ていただけたらなと思っています。

○平田 新しいガーデンのゾーンもありますけれども、意外にも人を見てほしいということかもしれません。ありがとうございます。

じゃあ、次にチャールズさん。

○ハンター まず、ミッションですけども、ナイアガラ公園協会と園芸学校がありますので、かなり大きな学校ということになります。特に保全を重視しております。

園芸学校についても保全というのは重要なミッションですけども、それだけではなく、やはり教育に力を入れています。

やはり植物を育てるというだけではなくて、人材を育てているんです。学生というのが重要だと思います。植物館にとって、園芸学校があるとなかろうと、本当に教育というのは重要だと思います。ビジター、ゲストだけではなく、実際にサイトにいる人すべてですね。みんな同じ経験を教育できる、そして、きちんと一貫性



のある説明を受けられるということが重要であると思います。

そこで、私たちが重視しているのは、実際にサイトに来られてガーデンを見て回られて、いろいろなサインを見ながらきちんとそれに従っているような経験ができるということです。ダグが言いましたけれども、やはりビジターをどのようにして導入していくのか、ガーデンに来ていただいてどういう経験をしていただくのか、そういった経験を改善するためには、やはり教育というのが必要だと思います。

ビジターの方が来られたときによく聞かれるんですけども、植物館と、それから、園芸学校があるということについての質問をされます。

いろいろなガーデンを実際は学生がつくっているということ、その事実を知られると、皆さん驚かれるんです。

この業界でも、やはり持っている知識というのを適応しなければいけないと思います。知識というのは、リーダーだけではなく、ボランティアとして働くに関してもそうです。会社で働くにしてもそうです。つけた知識というのを生かしていくということ。これが、私たちの庭園にも生かされております。

○平田 ありがとうございます。

ナイアガラの場合は園芸学校がありましたので、教育に対するいろんな取り組みの姿勢を教

えていただきました。もしナイアガラに行く機会があったならば、ナイアガラパークスの中のナイアガラ園芸学校のほうも、そういう視点でじっくり見ていただくということが、また新たな発見につながるのかもしれない。

それでは、クリスさんから。

○チャーマン ありがとうございます。

ナショナルトラスト財団は、保全を役目としておりますので、私たちににとって重要なことは、国際的にも国内的にも大切な庭園を、恒久的に誰もが楽しめるように保全していくということがあります。

私たちににとって重要な要素として、まず、この保全の管理計画がしっかりしていなければいけない。どのようにしてそれをきちっと実施していくか。そして、またその場所の、ローレンス・ジョンソンがつくった場所のスピリットをきちっと継承していくことです。

もともとの創設者のビジョン、スピリットを継承していくと。保全の中で、基本的に変わっていくところもありますけれども、変わらない部分も大切にしていくこと、保全ということと、それから、当初の設立当時のスピリットを守り続けていくということが大切だと思います。

2つ目の質問に関しては、3つあります。

まず、ビジターの方々に理解していただきたい、見ていただきたいのは、ストーリーに留意

してほしいです。ジョンソン氏がどのようにしてこの庭をつくったか、そして、なぜ重要なのか。大切な場所なのかということ。

そして、2つ目は、園芸の職員の基準と水準、そして、スキルの高さ、そちらに目を向けていただきたいと思います。園芸業界の中では、本当に最高水準の技術が実践されていると思っています。

そして、3つ目は、皆さんに感動してほしいです。このヒドコート庭園の中には、いろいろとスタイルを模倣してもらったり、参考にしてもらったりできるような要素があると思いますので、ストーリーに留意して、そして、その基準を感じていただいて、そしてまた、インスピレーションを受けて帰っていただきたいと思っています。

○平田 スピリットとストーリーを、デザインから感じることでできるガーデンであるというお話でした。

残念ながら、私はそこに行ったことがないので、ぜひ機会を見つけてそのストーリーとスピリットを感じたいと思います。

それでは、加藤さんから。さっきのスライドの中でまだ説明が足りなかったところがあると思うので、ぜひ最後に御紹介いただければと思います。

○加藤 私の場合、お世話になっているお庭は京都にたくさんありますし、最近は非公開のお庭も多くなりました。

本日、事例として紹介した無鄰菴は南禅寺界隈の別荘庭園ですが、行ったことある方はどれぐらい、いらっしゃいますか。ぜひ、南禅寺の近くへ行かれたときはお立ち寄りいただければと思います。

本日の配布物として、日本造園学会の技術報

告集の抜き刷りをお配りしていますが、こちらにより詳しく無鄰菴を育む様子が紹介されています。無鄰菴に行かれたら、ぜひのどかな田園風景を感じてください。そして、特に注目いただきたいのが、本日もお話しした東山からの借景の連続的な景色や小川のせせらぎ、小鳥のさえずりなどです。また、庭師がお手入れをしている姿もまた、景色にいい味を加えてくれていますので、そんな姿をぜひご覧いただければ幸いです。

また、野花に注目していただくのも面白いかと思います。無鄰菴の芝生広場は、いつもツルツルにきれいに芝刈りされていません。それは、110年前にこのお庭を創建した施主の山縣有朋さんは、野趣にあふれた、野花を愛してらっしゃったからです。我々はその思いを大切にしていますので、咲き終わった野花を手引き除草し、それから刈っていくという、かなり芸の細かい作業をしております。そのようなこともこの造園学会の技術報告集にまとめております。

お庭というのは、その個性に合わせてお手入れをしていきます。本質的価値というところと難しく聞こえるかもしれませんが、簡単に言いますと、そのお庭らしさですね。南禅寺さんのお庭の場合は南禅寺さんのお庭らしさ、無鄰菴は無鄰菴らしさがありますし、東本願寺さんは東本願寺さんらしさ、清水寺さんは清水寺さんらしさみたいなものがあります。我々京都の庭師は、このお庭らしさとは何か、をいつも探求しながらお手入れをしています。京都のお庭を訪れた際は、このお庭らしさって何だろう、それを庭師はどんなふうに表現しようとしているのか、などと想いを巡らせながら見ていただければうれしいです。以上です。

○平田 ありがとうございます。

芝生広場のちょっと違った見方をぜひ、無鄰



菴でしてほしいということでした。しかも、それはおもしろそうだからやっているわけではなくて、もともとつくった人の意思を今に引き継いでいるんだということでありました。

じゃあ、最後に辻本さんからよろしくお願いします。

○辻本 大切なことというのは、私は植物館をやっているというか、全体を通して皆さんに伝えたいことは、やっぱり自然と人間の調整の大切さと、日本の花文化のすばらしさ。それを、私もその展示をやっている中で学んでいます。それを一緒に気づいていただけたらいいなというふうに思っているということです。

それと、今回、2015年から屋外でもできることになったので、植物館はどちらかと言えば、ラン展で時々は大隈重信さんがどんな気持ちでランを育てたり、メロンも育てたり、盆栽もやってたんです。すごくおもしろい、文化人とか政治家が植物とつき合っていると、彼らがどんなことを思い、どんな気持ちで日本の文化を守っていったり、ヨーロッパの文化が入ってくるときに、日本の文化も守りながらヨーロッパのものも吸収するというやり方をしたのかというようなことを、私はいつでも誰かをテーマとしています。

今回はジョセフィーヌです。プレイガールであるジョセフィーヌだけじゃなくて、ジョセフ





イーヌという人が世界じゅうのものを集めながらいろんなことを、植物を集めて、言えば、バラ、四季咲きのバラをつくるということに貢献した人ですが、彼女のすばらしさというのを感じてもらいたい。そのことが、私たちが花文化ということ、自然と生きてることとか、花と生きることの大切さ、それが文化を産んできたということ伝えていきたいということです。

中には、すごくみんなちゃんとしてないとかからないよという感じで、私はちょっとテストしてるところがあるんです。来られた方を案内して、その人の態度で、あっ、この人全然できてないわとか、勝手に意地悪な判断をしておりますので、皆さんどっかに私が問いかけをしています。常に何かの問いかけを私の空間ですしていますので、それに答えていただきたいというふうに思っています。

見てもらいたいということは、先ほど言いました新しい空間というのは、時間をかけてやる場所です。今、淡路の植物を入れて、そして、野の花も園芸市で買ってきたものを入れてます。でも、それを見せながら、ボランティアさんに集まっただきながら、本来あるべき姿のものをつくっていきたい。初めは、初めからそれをつくると言ってたんですけど、何年かけて集めても、今の私どもの人数では集められない。だから、ちょっとでも感動していただく方とか、そういう考えに賛同してくださる人がふえれば、

私たちが淡路の植物でつくる本当に自然の里山というのを、人間の力で自然以上に美しい里山ガーデンと呼んでますが、里山ガーデンをつくれたらなと思いますので、時間をかけて見てもらいたいし、時間をかけてつくっていくところに皆さんの御協力をいただきたいというふうに思っております。

○平田 はい、ありがとうございました。ちょうど55分となりました。御協力ありがとうございました。

今日、各世界のガーデンから御説明をいただきました。皆さんの御説明の中にあふれていたのは、ガーデンというものが植物で形を表現したものだけではなくて、そこにストーリーとスピリットがあるんだということではなかったかと思えます。

そのストーリーとスピリットのテーマは、人と自然の共生の空間であるということ表現するということであったということかなというふうに思えます。

ぜひそういうストーリーとスピリットを、今度、各庭園を訪れたときに皆さんも感じていただければと思います。ただ、どうやってそれを感じられるかということになるんですが、どうも今のお話を聞いていると、そこに人を見るとき、そこで働いている人と話をしてみると、ことにヒントがあるんじゃないかなというふうに思えます。

今日の話は、空間を見ていただくと同時に、どうも人を見てほしいというようなことが、どんな人を今育てているのか、その人たちが今、現場でどういうふうに頑張っているのか、そういう人を見てほしいという気持ちも、マネジャーさんの立場からするとあふれていたような気がいたします。

ぜひ、皆さんも、それぞれの庭園に行かれる



機会があると思いますが、そういう視点を持って見ていただくと、また新たな発見があるんじゃないかなというふうに思えます。そういう新

たな発見のきっかけになるようなシンポジウムであつたら、私たちがこれを企画してよかったかなというふうに思います。

最後になりましたけども、今日、遠いところから淡路まで駆けつけてくださったパネラーの皆さん、そして、基調講演をいただいたダグさん、そして、御挨拶をいただきましたボールさん、御来賓の皆さん、最後に拍手でもって感謝の意をあらわして、このシンポジウムを閉じさせていただきたいと思います。

皆さんもよろしくお願ひします。ありがとうございました。(拍手)

◇世界の庭園に関する写真展示概要

国際フォーラムの開催に合わせ、参加国の庭園の紹介コーナーとして、世界の庭園に関する写真展示を行った。

会場は、フォーラム会場に隣接した淡路夢舞台国際会議場レセプションホールBホワイエ。各国、5～10枚の写真を掲示し来訪者全ての方にオープン形式で観覧頂いた。

出展庭園等

- ・ロングウッドガーデン（アメリカ）
- ・ヒドコートマナーガーデン（イギリス）
- ・ナイアガラ園芸学校（カナダ）
- ・無隣庵等京都の庭園（日本）
- ・淡路夢舞台温室奇跡の森の植物館（日本）

会場風景



◇広報チラシ（表）

世界の庭園と景観園芸に関する 国際フォーラム

花みどり環境の創造と担い手

同時通訳
あり





● 基調講演 庭園管理と人材育成
ロングウッドガーデン 教育部長 ダグラス ニーダム氏

● パネルディスカッション

コーディネーター
・平田富士男氏 淡路景観園芸学校 / 兵庫県立大学 教授（日本）

パネリスト（予定）

- ・チャールズ・ハンター氏 ナイアガラ園芸学校 マネージャー（カナダ）
- ・ダグラス・ニーダム氏 ロングウッドガーデン 教育部長（アメリカ）
- ・クリス・チャーマン氏 ヒドコートマナーガーデン ゼネラルマネージャー（イギリス）
- ・辻本哲子氏 夢舞台奇跡の森の植物館 プロデューサー（日本）
- ・加藤友規氏 緑葉加藤造園株式会社 代表取締役（日本）

特別報告
・ポール・クンストナー氏 フィデリティ財団 副理事長（アメリカ）

開催日 2015年4月25日（土）

時間 14:00～17:00
（13:30～音楽演奏あり）

場所 夢舞台国際会議場メインホール

定員 200名（当日受付可）（庭園の写真展あり）

● アクセス
バスでお越しの際は、「淡路夢舞台」で下車ください。
駐車場のご案内：淡路夢舞台駐車場をご利用下さい。受付にて無料駐車場をお知らせします。



主催 淡路景観園芸学校 2015 花みどりフェア実行委員会 （一財）自治総合センター

協賛 淡路花博 15 周年記念事業実行委員会

後援 総務省 神戸新聞社

この催しは、全国モーターポート競走実行者協議会からの賛助金を活用して実施するものです。

◇当日パンフレット（表紙）



◇当日パンフレット（プログラムと出席者）



プログラム

- 12:30～13:30 【受付】
- 13:30～14:00 【オープニング・音楽演奏】
弦楽四重奏（相本朋子、根垣りの、岡本名那子、佐藤慎）
- 14:00～14:20 【開会：主催者・来賓 挨拶】
熊谷 洋一（兵庫県立淡路景観園芸学校 学長）
田中 基文（兵庫県造園建設業協会 副会長）
ポール クンストナー（フィデリティ財団 副理事長）
- 14:20～15:00 【基調講演】 「庭園管理と人材育成」
ダグラス ニーダム（ロングウッドガーデン 教育部長（アメリカ））
庭園管理において必要なスキルと人材育成、ガーデン紹介など
- 15:00～15:15 ————— 休憩 —————
- 15:15～16:55 【パネルディスカッション】
◇コーディネーター：
平田 富士男（淡路景観園芸学校／兵庫県立大学大学院 教授）
◇パネリスト：
・チャールズ ハンター（ナイアガラ園芸学校マネージャー（カナダ））
世界三大瀑布ナイアガラの滝を擁する公園施設の管理運営を担う公園協会より
・クリス チャーマン（ヒドコートマナーガーデン ゼネラルマネージャー（イギリス））
イギリス発祥のナショナルトラスト財団が管理する庭園より
・ダグラス ニーダム（ロングウッドガーデン教育部長（アメリカ））
アメリカを代表する名庭園であるロングウッドガーデンより
・加藤 友規（植樹加藤造園株式会社 代表取締役（日本））
伝統的な日本庭園が数多く存在する京都より
・辻本 智子（淡路夢舞台奇跡の星の植物館 プロデューサー（日本））
淡路花博の理念を継承する淡路夢舞台 奇跡の星の植物館より
- 16:55～17:00 【閉会】



- ◆会場：淡路夢舞台国際会議場メインホール
◆開催日：2015年4月25日（土）

テーマ 花みどり環境の創造と担い手

人と自然の共生を感じられる場所として庭園がある。このフォーラムでは、国内外の庭園等における花と緑で環境を形成する活動について事例を紹介し、それらを実現するために必要な人材、資源などについて明らかにする。

基調講演では、海外での庭園管理に関わる人材育成について米国ロングウッドガーデンの取り組み例を、パネルディスカッションでは国内外の名園での事例を報告頂く。その報告から、景観園芸分野における人材育成についての共通点・相違点を踏まえ、育成手法について今後の方向を議論する。

基調講演



ダグラス ニーダム (ロングウッドガーデン教育部長 (アメリカ))
Douglas C. Needham, Ph. D (Director of Education, Longwood Gardens)

ロングウッドガーデンは、米国ペンシルベニア州にある世界で有数のディスプレイ庭園である。約400haの敷地を有し、20のガーデンで構成されており、四季折々の植物が楽しめるだけでなく、教育・研究部門も持ち、植物育種等も盛んに行われている。

ダグラス氏は、ロングウッドガーデンの教育部長として後進の育成を推進している。



コーディネーター



平田 富士男 (淡路景観園芸学校/兵庫県立大学大学院 教授 (日本))
Fujio Hirata (Professor, Awaji Landscape Planning and Horticulture Academy / Graduate school of Landscape Design and Management, Univ. of Hyogo)

1982年、建設省(現国土交通省)入省、公園緑地、都市計画行政を担当。各地の国営公園の建設、管理運営に従事。1999年淡路景観園芸学校の開校と同時に着任し、緑環境に関わる施策の立案から花と緑のまちづくりボランティア育成の実践まで幅広く緑豊かなまちづくりの推進に関する教育・研究に取り組んでいる。

パネリスト

チャールズ ハンター (ナイアガラ園芸学校マネージャー (カナダ))

Charles Hunter (Superintendent, The Niagara Parks Commission: Botanical Gardens, School of Horticulture and Butterfly Conservatory)

2000年に開催された淡路花博ではカナダ庭園の造営に携わる。現在、世界三大瀑布ナイアガラを擁する公園の管理運営を担うナイアガラ公園協会において、ナイアガラ園芸学校のマネージャーとして学生の指導を統括している。



クリス チャーマン (ヒドコートマナーガーデン ゼネラルマネージャー (イギリス))

Chris Charman (General Manager, National Trust: Hidcote Manor & Westbury Court Gardens)

ヒドコートマナーガーデンは、英国コッツウォルズ地方にあるイングリッシュガーデン。多様な特徴とテーマを有する25の異なる庭園を生垣で区分しながら整いだ構成をもち、コテージガーデンの集大成といわれる。1948年から、自然保護団体ナショナル・トラストによって管理・運営されている。クリス氏はその全体を統括する立場として管理運営に携わっている。



ダグラスニーダム (基調講演者)

Douglas C. Needham, Ph. D (Director of Education, Longwood Gardens)

加藤 友規 (植葉加藤造園株式会社 代表取締役社長 (日本))

Tomoki Kato (President, Ueyakato Landscape Co., LTD)

166年続く京都老舗の造園会社の8代目。日頃は、南禅寺・東本願寺・智積院などの文化財庭園や南禅寺界隈における無鄰菴・對龍山荘・何有荘などの別荘庭園の作庭と育成管理に携わる。日本の庭園文化を継承しつつ、最高の技術と感性で伝統を創造する、種なプロの職人集団を目指し、造園の現場、研究、経営の三位一体に取り組んでいる。



辻本 智子 (淡路夢舞台奇跡の星の植物館 プロデューサー (日本))

Tomoko Tsujimoto (Producer, The Miracle planet Museum of Plants)

淡路夢舞台奇跡の星の植物館は、夢舞台のこアミュージアムとして、五感に訴えるユニークな展示で自然の美しさ・巧妙さを体感できる『五感軸』と、先人の花文化や現代の暮らしの中での地域性、伝統性を継承する花・緑、異分野交流で生み出す新たな都市の緑化を提案する『花と緑のある暮らし軸』で構成される。植物だけでなく、花文化を食、音楽、アートとコラボレートさせたトータルプロデュースが定評。



◇淡路景観園芸学校 HP

世界の庭園と景観園芸に関する国際フォーラムが開催されました。

世界の庭園と景観園芸に関する国際フォーラム 開催報告

5348年7月58日(土)に、世界の庭園と景観園芸に関する国際フォーラムを淡路夢舞台国際会議場メインホールで開催しました。

フォーラムのテーマは、花みどり環境の創造と担い手。

人と自然の共生を感じられる場所としての庭園を対象に、国内外の庭園等における花と緑で環境を形成する活動について事例を紹介し、それらを実現するために必要な人材、資源などについて明らかにすることを目的に開催されました。

基調講演では、海外での庭園管理に関わる人材育成について米国ロングウッドガーデンの取り組み例を、パネルディスカッションでは国内外の名園での事例を報告頂き、その報告から、景観園芸分野における人材育成についての共通点・相違点を踏まえ、育成手法について今後の方向を議論するという趣旨でした。

当日は、弦楽四重奏で始まり、熊谷洋一景観園芸学校校長の主催者挨拶、井戸敏三兵庫県知事による歓迎の挨拶、田中基文兵庫県建設業協会副会長およびボルクストナーフェディリティ財団副理事長の来賓挨拶と進みました。

その後、基調講演としてロングウッドガーデンの教育部長である、ダグラスニーダム氏からガーデンの紹介と人材育成に関わる各種プログラム(幼稚園児～大学生の幅広い世代の人材育成、プロの園芸家の養成、生涯教育等)の紹介が行われました。



弦楽四重奏



基調講演

基調講演後のパネルディスカッションでは、カナダのナイアガラ園芸学校からチャールズハンター氏、イギリスのヒドコートマナーガーデンからクリスチャーマン氏、京都の日本庭園の管理をされている加藤友規氏、奇跡の星の植物館のプロデューサーである辻本智子氏の各氏から各々が管理もしくは運営されている庭園について、写真を交えて紹介頂くとともに、それらを管理するための人材育成について、卒業生の高齢化、人材確保の困難さ、形のない技術の伝承のむずかしさなどの意見がだされました。

また、メイン会場外において、各国の写真パネル展示を行いました。

◇淡路景観園芸学校 HP つづき



パネルディスカッション



各国の庭園写真 パネル展示

当日は483名以上の参加者があり、皆さん、世界の庭園の写真やそこでの人材育成について理解を深められたのではないかと思います。

参加者からは、各国の庭園で人材育成の教育まで行っていることや多様なプログラムが用意されていることに対して、初めて知ったという意見や、庭園の写真などがとても綺麗であったという意見などを頂きました。

[学校案内](#) [教育課程](#) [施設案内](#) [入試案内](#) [国際交流・留学](#) [キャンパスライフ](#) [就職・資格](#)

◇新聞記事

- ・平成 27 年 4 月 18 日 (土) 神戸新聞「世界の名庭園担当者討議」
国際フォーラム開催の事前案内記事
- ・平成 27 年 4 月 26 日 (日) 神戸新聞「国内外で活躍 園芸家ら議論」
国際フォーラム開催結果の紹介記事

おわりに（概要）

2015年4月25日（土）に、世界の庭園と景観園芸に関する国際フォーラムを淡路夢舞台国際会議場メインホールで開催しました。

フォーラムのテーマは、花みどり環境の創造と担い手。

人と自然の共生を感じられる場所としての庭園を対象に、国内外の庭園等における花と緑で環境を形成する活動について事例を紹介し、それらを実現するために必要な人材、資源などについて明らかにすることを目的に開催されました。

基調講演では、海外での庭園管理に関わる人材育成について米国ロングウッドガーデンの取り組み例を、パネルディスカッションでは国内外の名園での事例を報告頂き、その報告から、景観園芸分野における人材育成についての共通点・相違点を踏まえ、育成手法について今後の方向を議論するという趣旨でした。

当日は、弦楽四重奏で始まり、熊谷洋一淡路景観園芸学校学長の主催者挨拶、井戸敏三兵庫県知事による歓迎の挨拶、田中基文兵庫県造園建設業協会副会長およびボールケンストナーフェデリティ財団副理事長の来賓挨拶と進みました。

その後、基調講演としてロングウッドガーデンの教育部長である、ダグラス・ニーダム氏からガーデンの紹介と人材育成に関わる各種プログラム（幼稚園児～大学生の幅広い世代の人材育成、プロの園芸家の養成、生涯教育等）の紹介が行われました。

基調講演後のパネルディスカッションでは、カナダのナイアガラ園芸学校からチャールズ・ハンター氏、イギリスのヒドコートマナーガーデンからクリス・チャーマン氏、京都の日本庭園の管理をされている加藤友規氏、奇跡の星の植物館のプロデューサーである辻本智子氏の各氏から各々が管理もしくは運営されている庭園について、写真を交えて紹介頂くとともに、それらを管理するための人材育成について、卒業生の高齢化、人材確保の困難さ、形のない技術の伝承のむずかしさなどの意見がだされました。

また、メイン会場外において、各国の写真パネル展示を行いました。

当日は166名の参加者があり、皆さん、世界の庭園の写真やそこでの人材育成について理解を深められたのではと思います。

参加者からは、各国の庭園で人材育成の教育まで行っていることや多様なプログラムが用意されていることに対して、初めて知り驚いたという意見や、庭園の写真などがとても綺麗であったという意見などを頂きました。

このフォーラムの成果を参考に、今後の花緑活動の担い手が育って下さることを念じて報告と致します。

淡路景観園芸学校 2015 花みどりフェア実行委員会

淡路景観園芸学校 2015 花みどりフェア実行委員会 委員名簿

平成26年度

淡路景観園芸学校	斉藤 庸平（委員長）	淡路景観園芸学校	松下 剛士
〃	藤原 道郎	〃	内藤 公二
〃	平田 富士男	〃	守先 均
〃	沈 悦	兵庫県公園緑地課	佐伯 公宏
〃	山本 聡		
〃	城山 豊		

平成27年度

淡路景観園芸学校	藤原 道郎（委員長）	淡路景観園芸学校	松本 元生
〃	斉藤 庸平	〃	三村 博信
〃	平田 富士男	〃	眞鍋 篤司
〃	沈 悦	兵庫県公園緑地課	佐伯 公宏
〃	山本 聡		
〃	城山 豊		

発行：淡路景観園芸学校 2015 花みどりフェア実行委員会

発行日：2015 年 7 月

